

高・大・一般 漢字（楷書B）

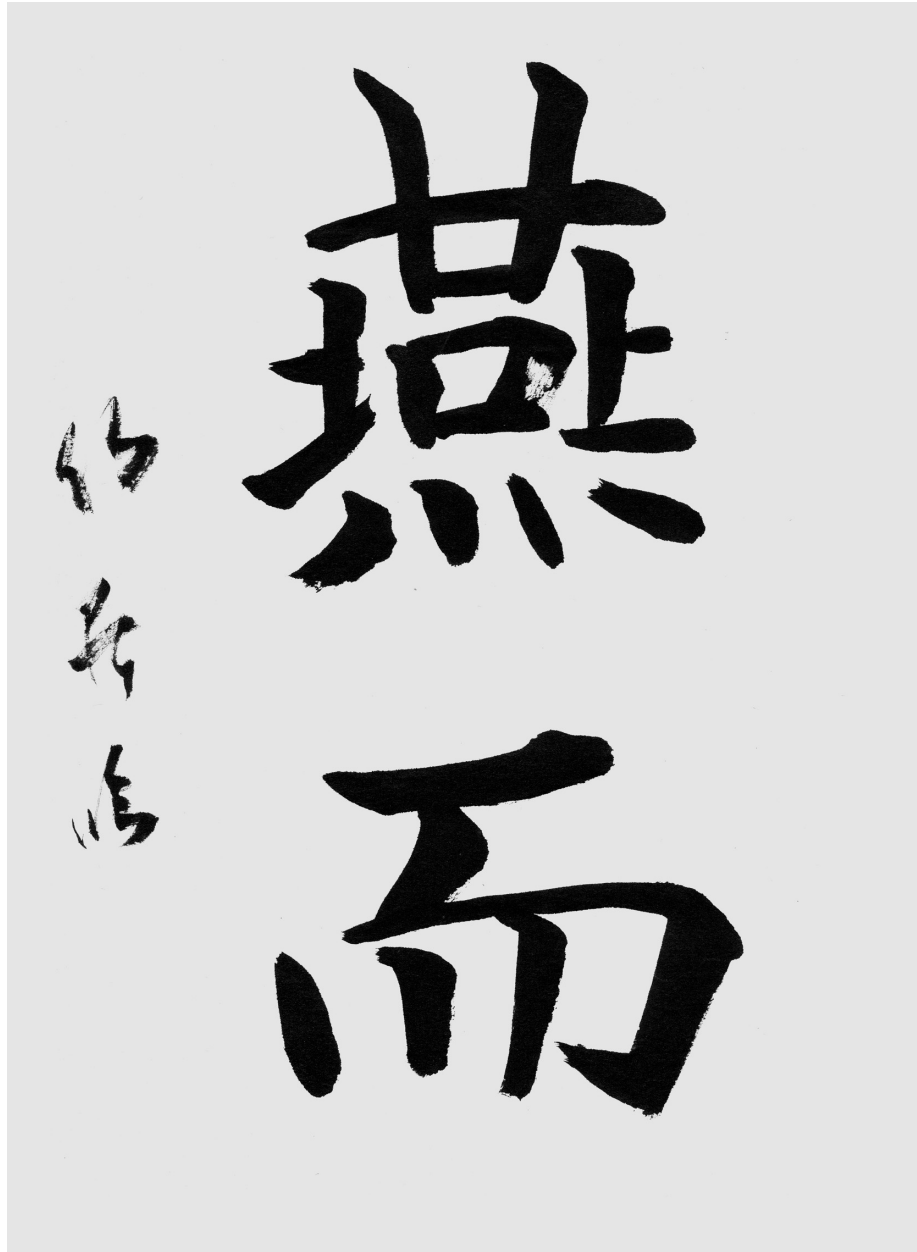
※楷書A、Bは段級を問わず両方出品も可。

長野 竹軒

楽毅論（光明皇后）
がっきろん こうみょうこうごう

④

燕而



〈解説〉

今月の課題で学習する重要なポイントは「起筆の角度」です。まず、字形としてのまとまりは考えずに、丁寧（ていねい）に起筆し「紙の上に乗せる」ことを意識して書くようにします。

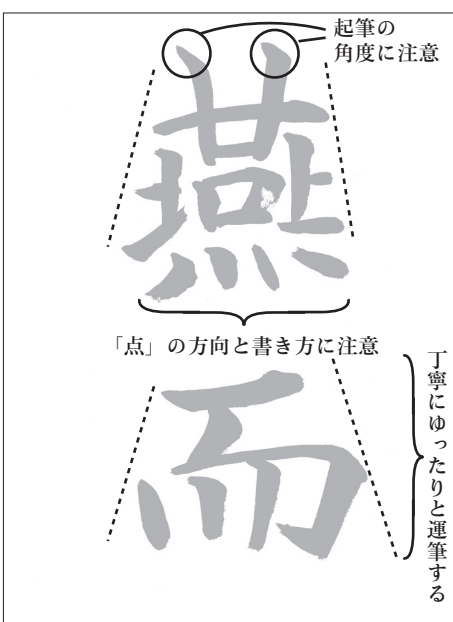
例えば「燕」の最後に書く「れんが」の点（てん）がすべて異なる形になっていますが、丁寧に起筆して自然な流れで運筆できるように研究しましょう。「而」もそれぞれの起筆の角度と筆の置き方に注意して表現する意識が必要です。

〈学習上の留意点〉

墨を濃い目に磨（す）って、羊毛の筆を使用して書きましょう。

「燕」…最後に書く「れんが」の点の書き方に注意してください。

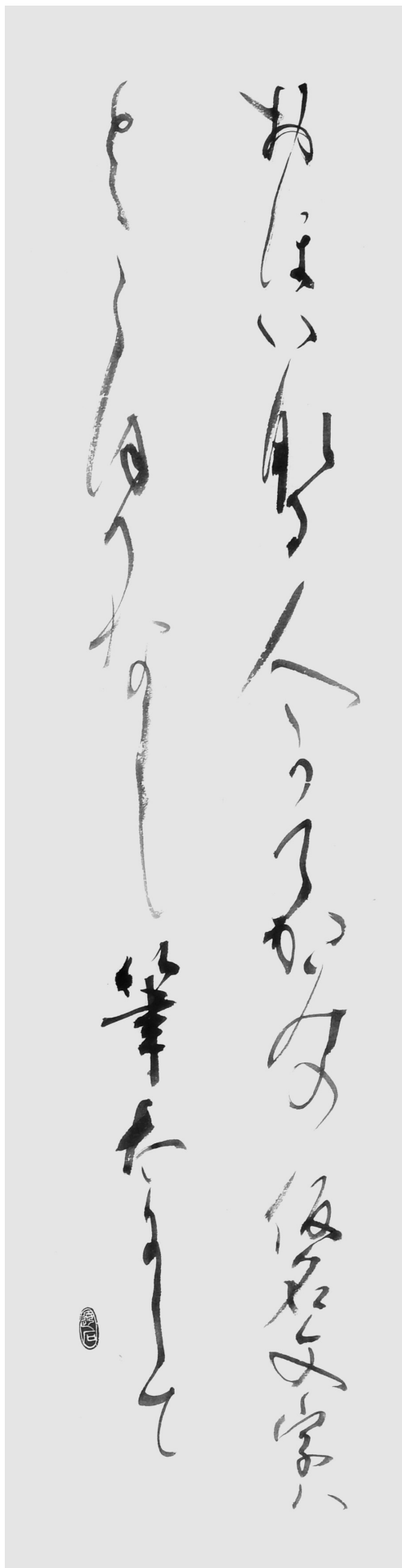
「而」…全体的に扁平（へんぺい）になるように表現する。



高・大・一般 仮名

新(10)級から五段までは作品用紙として画仙紙ハツ切り(68cm×17.5cm)又は、画仙紙半切(136cm×35cm)のみの出品です。
六段から八段までは作品用紙として従来通り画仙紙半切(136cm×35cm)のみの出品です。

清水 透石



半切に和歌を書く

〈釈文〉おほい那る人可てかみの仮名文字ハ と、こ保りなし筆太尔して
〈出典〉岡 麓 (庭苔より 豊太閤書状)

歌意

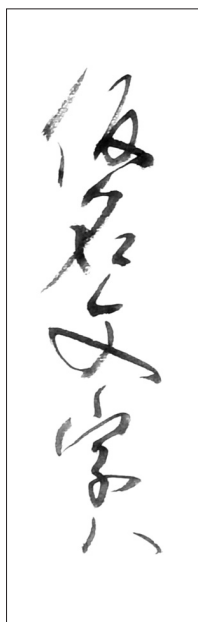
大人物豊太閤の書いた手紙のかな文字は
すらすらと、どこおることなく、筆太に書い
ていることだ。(史料展覧会の折の歌)

岡麓は歌人であるとともに仮名書家でもある。
代々徳川家の御典医を勤めた家系、子規門下島
木赤彦、斎藤茂吉らとともに活躍した。書家岡
麓の眼で見た豊臣秀吉の書状に感動して詠んだ
歌である。

揮毫上の注意

万葉調写生短歌誌「馬酔木」を
伊藤左千夫等と刊行した岡麓の歌調も、私達が
日々学書する古筆の表現技法になじみやすい。
「おほい那る」は、「高野切・関戸本」に出る
用字法である。

「人可」は安定感のある字形にしたい。「てか



み」は漢字に置き換えたい所であるが、原形に
ならってかなのままにした。やや意味が採りに
くいと思いつつ書いた。

「仮名文字」の漢字四文字は行末のため重くな

らないように注意。字形をやや小さく軽快に運
筆するとよい。

二行目行頭は墨継ぎせず、次第に墨量少なく
して「なし」の渴筆、特に「し」の線条の変化
は表現してほしい。一本の筆でいかに複雑な線



が引けるか、皆さんの力量を判断したい所であ
る。

「筆太尔して」は歌意に添って墨継ぎして、線

条は太く大胆に運筆する。

雅印の位置は、最も安定した空間を決めて押
印する。落款印の押されていない作品は完成し
た作とは見えない。上位に評価しませんので
忘れず、印泥をよく練って、ていねいに押すこ
と。一月から三月まで近現代歌人の作品を手本
とする。